

形原みらい工房

～形原の学校と地域の未来を考える～

2025.9.25



朝比奈さんに、赤い電車応援ソングに込めた想いを語る生徒たち



カトカートンという音楽ソフトを使って作曲している生徒たち



昨年度、形中2年生は、ふるさとの良さを音楽で地域へ発信する「形原を伝えるメロディを創ろう」という音楽の授業をおこないました。授業では形原の産業・文化・歴史・観光などをイメージした曲と写真を合わせた映像作品を個々で制作しました。そして、それらを形原温泉アジサイまつり・ナビテラス・公民館などで放映していただき、形原の良さをPRしました。

今年度、その活動を知った「にしがま線応援団鉄研実行委員会」の朝比奈航希（大学4年生）さんから、「赤い電車を応援する曲を作ってほしい」というビデオメッセージが学校に届きました。

高校の通学に欠かせない西尾蒲郡線の存続は、形中生にとっても大きな関心事です。ビデオメッセージをきっかけに、2年生の生徒たちから「赤い電車応援ソングを創りたい。」という声があがりました。そして、今年は曲だけでなく、歌詞のついた応援ソングを音楽の授業で創ることになりました。

7/14(月)、2年5組の音楽の授業に朝比奈さんをお招きしました。生徒たちは制作途中の「赤い電車応援ソング」に込めた想いを朝比奈さんに伝え、アドバイスや感想をいただきました。

生徒からは「メロディやイメージを褒めてもらって、めっちゃ嬉しかった。」「駅とかで流れたらもっと嬉しいです。」という声が聞かれました。授業の最後に代表のグループが応援ソングを披露しました。

現在、駅関係施設や地域のイベントで応援ソングを流していただけるように働きかけています。形中2年生が創った「赤い電車応援ソング」が街に流れ、西尾蒲郡線の存続を盛り上げる気運が、今以上に高まってくれるといいですね。

形小
6年

小学生が 形っ子フェスティバルで 防災食アレンジレシピ集を配布

8/24(日)、形小6年生が考えた「防災食アレンジレシピ集」を形っ子フェスティバルで参加者に配布しました。

このレシピ集づくりは、1区天野総代さんを講師にお迎えした「運動場の防災倉庫には何が入っているの？どう利用するの？」という授業(5/30)と、市役所危機管理課さんを講師にお迎えした「地震の時の行動と非常食の試食」という授業(6/9)がきっかけです。

防災意識が高まった子どもたちは、自分たちで何かすることはできないかと考え、家庭科の授業で「簡単に作れるおいしい防災食のレシピ」を作ることにしたのです。

レシピ作りでは、「葵みつば会」さんに講師をしていただきました。その授業で講師の方から、「子どもたちの柔軟な発想のレシピを、地域の方にも伝えたらどうか」というご意見をいただきました。そして、今年の形っ子フェスティバルの参加者に配布することになりました。

沢山の方にこの防災食アレンジレシピをみていただき、また、実際に作っていただくことで、地域の防災意識が高まってくれることを願っています。



鈴木市長さんにレシピを配布

形中

形中生が保育園で絵本読み聞かせ！

8月4.7.8日の3日間、昨年度に引き続き、形中生が形原保育園で「絵本読み聞かせ」を行いました。

生徒たちは、見やすいように絵本を体の横に持ち、主人公になった気持ちでゆっくり読みすすめ、園児たちを絵本の世界に誘っていました。また、読み方の不安なところを事前に保育園の先生方に質問し、園児の前では堂々と読む姿がみられました。

園長先生より「園児はおにいさん・おねえさんが来てくれるのを楽しみに待っています。またきてくださいね。」とお話がありました。

生徒たちは、「職場体験より上手にできた！」「2回目はうまく読めた！」「みんな静かに聞いてくれたり、反応してくれて嬉しかった！」と話していました。

お隣さん同士ですので、今後も交流できる機会を作っていきたいと思います。

